

NEWS

プレゼンCAD「Walk in home」が2倍に高速化 作業短縮でき、CG描写もよりリアルに

システム開発のDTS（東京都中央区）は、住空間プレゼンテーションCAD「Walk in home（ウォークインホーム）」の機能を大幅に刷新した。今回のリニューアルのテーマは、働き方改革。「システム基盤をゼロから見直し、処理速度の大幅な向上を図った」（同社担当）。

同製品は、ハウスメーカーやビルダー、工務店、建材メーカーのCADオペレーターや営業担当者が活用するプレゼンテーションツールで、プレゼンCAD市場の「約4割を占めている」（同社）という。プレゼンは住宅営業のなかでも重要になってきてお

り、プレゼン業務の効率化を進めることは業界全体の働き方改革にもつながる。

CGを書き出すエンジンも独自で開発した。「計算を最適化したことで、リアルな影の描写などがリアルタイムでストレスなく、できるようになった」（同社開発担当）。

処理速度が2倍以上高速になったことで、入力時のちょっとした待ち時間が削減でき、「例えばこれまで8時間くらいかかっていた作業が6時間半くらいに短縮できるようになった」という。長時間労働が指摘されている建設業において、基本的な業



〔上〕大規模物件の制作例「図書館」（制作・画像提供：安心計画（株））。背景の映り込みなど細かな描写が可能
〔右〕DTS本社のデモスペースでのVR体験の様子。事前予約制で体験することができる

務の効率を上げることで労働時間の短縮につながり、経費の削減効果もある。

また、処理速度が大幅に向上したことで、これまでは実質不可能だった、大規模物件（公共施設や大型商業施設）の図面作成や3Dパース編集が可能になった。木造でも中大規模の

建築物の仕事が増えてきており、プレゼンテーションの機会も増えていることから、「提案内容に対する魅力をより伝えやすくなっている」（同）。

バーチャルリアリティ（VR）によるプレゼンテーションもリアルになり、臨場感のある提案が可能になっている。